会報　和訶羅河
第286号　2025(r07).02.21
城陽の緑と文化財を守る会

寺田李の若木、山科植物資料館へ　１月27日

―― 春には花が咲く、森澤さん談 ――

明治の初めころに森澤善吉氏が品種改良で生み出した寺田李、明治３８年には時の天皇・皇后に献上され、そのおいしさが称賛されています。その後、病気や戦争、宅地開発などでほとんどの木が切られてしまいましたが、善吉氏の末裔にあたる森澤昭夫さんが今日まで大切に守り育てられています。今回、日本新薬㈱山科植物資料館のご理解とご協力を得て移植が行われ、山科の地でも寺田李が育てられることになりました。

根巻きされた寺田李の若木

□ 天気は曇、予定通りに山科へ

２７日（月）の天気は曇、予報では雨かも知れないとあったので一安心して「移植作業をします」と市の広報などに連絡して８時半頃に寺田の畑へ。移植にご協力していただいた中島さんや田畑さん、会員の卜田さん中東さんや福井さんも来られて根巻きした寺田李の若木を軽四のトラックに積み込む。高さ約１．８ｍ（樹高は1.5m程）、幹の径が約９ｃｍ位だが、重い。若木をロープで結わえて丸太１本で持ち上げようとするとミシッと音がするので慌ててもう１本追加、板で坂路をつくって持ち上げました。この間、森澤さんは根巻きの補強など敏捷に動かれて、とても９６歳には見えない作業の様子でした。

□ 山科植物資料館に到着

９時頃に福井さんの車を先頭に、若木を積んだ田畑さんの軽四、森澤さんが同乗している中島さんの軽四と３台で出発。宇治橋から奈良街道経由で１０時には山科植物資料館、スタッフの皆さんの出迎えの中を到着しました。植替えの場所は南門を入った管理棟の前にトラックをつけてさっそく植替えの作業。予定していた木がうまく運び出せないことが前日の作業で判明、予備の木に変更して運んで行ったので、資料館の皆さんには大変ご迷惑をおかけしてしまいました。

作業完了、移植の記念写真